

令和2年度 北海道・東北ブロック青少年国際交流を考える集い開催要綱

1. 趣旨

内閣府、地方公共団体等が実施した青少年国際交流事業の既参加者、国際交流に関心のある青少年等が、事後活動の情報交換を行うと共に、地域、職場等における事後活動の促進、国際交流及び国際親善についての研究協議を行うことにより、青少年の育成、国際交流及び国際親善の促進に寄与することを目的とする。

2. テーマ

「葛藤をこえた人のつながり～ローカルとグローバルの視点から多様な価値観を考える～」

2011年3月11日に発生した東日本大震災、それに伴い発生した福島第1原子力発電所事故。これらにより、福島の生活は大きく変わった。「放射線」という見えない存在によって、人々はさまざまな葛藤をし、さまざまな選択をしてきた。震災後約10年が経ち、福島でも復興が進んでいる。避難指示が解除され、その地で生活するという選択も可能になってきた。一方で、故郷に戻るべきか、戻るべきではないかというような新たな葛藤も生まれている。その上で、それぞれの思いを胸に、より良い未来に向け歩み始めている。

地域活性化や国際貢献を目指した事後活動を行う上で必要なファーストステップは、地域が抱える課題や困難さ、ニーズなどの現状や実態について知ること、生の声を聞くことであると考え、今回の集いでは福島の現状を事例とし、ワークショップと講演会を通して感じてもらうことをねらいとしている。

ワークショップでは、「船と翼の会ふくしま」のメンバーが企画し、東南アジア青年の船の福島プログラムで実施したものを体験いただき、震災当時の福島の家族を追体験することで、当時の人々の思いにせまっていく。講演会では、国際交流員として来日し、現在は福島大学経済経営学類助教として教鞭を執る傍ら、Fukushima Ambassadors Program を主催し海外の学生に福島の現状と魅力を発信し続けているマクマイケル・ウィリアム氏に、御自身の葛藤、福島の復興への思い、現在の取組について御講演いただく。福島に暮らす人の視点、外国人の視点などさまざまな視点から「福島の今」について理解を深めていくとともに、国際交流を通じた青少年の育成について考えていく。

これらを通して、多様な価値観の中で人と繋がり友好関係を築く為に、ローカルとグローバルで活躍する人材には重要な力である「共感力」を高め、より良い国際交流活動・地域活動にいかせること、また近年多発する自然災害の復興支援などでも、現場の困り感や葛藤に共感し、より良い支援のあり方について考え、地域のニーズにあった活動にいかせることを期待する。

3. 主催

内閣府 日本青年国際交流機構 一般財団法人 青少年国際交流推進センター
船と翼の会ふくしま

4. 後援

福島県 福島県国際交流協会

5. 主管

令和2年度「北海道・東北ブロック青少年国際交流を考える集い」実行委員会

6. 期日

令和2年8月22日（土）

7. 会場

オンライン（ミーティング ID などは参加申し込み頂いた方に後日連絡します。）

※実行委員会の会場

EIWAN 福島移住女性支援ネットワーク 福島事務所

（〒960-8055 福島市野田町2-3-2 神野ビル3F 東）

8. 参加対象者

国際交流に関心のある青少年

内閣府、地方公共団体が実施した青少年国際交流事業の既参加者等

9. 問合せ先

北海道・東北ブロック青少年国際交流を考える集い実行委員長 松井 智宏

TEL 090-5187-2878 E-Mail funetotubasa2020@gmail.com

10. 参加費

1,000円

※期日内の振り込みをもって、参加申込みの完了となります。

※内閣府国際交流事業に参加した方で、IYEO に平成29年度、30年度に入会金(事後活動研修費)を納めた方及び令和元年度に事後活動研修費を納めた方は、ブロック大会及び全国大会の参加費はそれぞれ一回ずつ無料となりますので、参加を予定している方は申込みフォームのその他連絡事項にその旨の記載をお願いいたします。

11. 参加申込み（締切：8月13日（木）定員を超えた場合は早目に締め切ることがあります）
web 申込みフォームからお申込み下さい。（定員70名）

【申込み先】

申込みフォーム：

<https://funetotubasal.peatix.com>

お支払いは、Peatix で決済をお願いします。



12. 日程

8月21日（金）

11：00～12：00

国際交流事業関係者連絡会議

（北海道・東北ブロック内県担当者向け・オンライン開催）

8月22日（土）

11：30～12：30

国際交流事業関係者連絡会議

（北海道・東北ブロック内 IYEO 会長向け・オンライン開催）

12 : 30～12 : 50	ブロック大会受付
13 : 00～13 : 10	開会式
13 : 15～15 : 30	ワークショップ「福島の家族会議 after3. 11」
15 : 45～17 : 00	講演「震災後のふくしまから発信する～福島を愛する外国人の目線から～」 講師：マクマイケル・ウィリアム氏
17 : 00～17 : 20	北海道・東北ブロック各道県の事後活動紹介
17 : 20～17 : 30	閉会式
17 : 40～18 : 40	懇親会（ZOOMのブレイクアウトセッションを使用し、少人数で15分×4回 国際交流・地域活動等について情報交換）

13. ワークショップ 「福島の家族会議 after3. 11」

震災後に「船と翼の会ふくしま」のメンバーが企画したワークショップ。2013年の「東南アジア青年の船」事業の地方プログラムで福島県に訪れた青年たちと英語通訳を介しながら行った。以降、国際交流理解講座や神奈川県 IYE0 にも出張で開催している。

内容：東日本大震災による原発事故後、福島の家族ではどんなことが起きていたのか、6～7人のグループに分かれて、家族内のそれぞれの立場（祖父母、父母、子ども）でロールプレイをすることで迫体験していく。その上で家族としてどのような選択をするか話し合うことで、当時の福島の人々の思いにせまっていく。

- (1) アイスブレイク（ブレイクアウトセッション） 30分
- (2) ワークショップ
 - ・状況説明（全体） 15分
 - ・グループで家族会議（ブレイクアウトセッション） 30分
 - ・振り返り（全体） 30分
- (3) 福島の人の思い（全体） 30分

14. 講演

テーマ：「震災後のふくしまから発信する～福島を愛する外国人の目線から～」

内容：グローバル人材のキーワードである「共感力」。これを高めるためには、それぞれの人の思いを知り、受け入れていくことが重要である。

本講演では、東日本大震災を福島で経験し、現在も福島で生活をしているマクマイケル・ウィリアム氏に、震災当時の思いや葛藤、外国人の視点から見た福島などについて御講演いただき、福島の今について理解を深めるとともに、「共感力」を持った人材を育成するために、どのような取組をされているかについてお話しいただく。国際交流事業受入れや災害支援などの事後活動全般における大切な心構えの一つであるとともに、事後活動のみならず、グローバル・ローカルで活躍する次世代の人材には必要不可欠な力である「共感力」について御講演いただくことは、次世代リーダーを育成し、地域活性化・国際社会へ貢献することを目指す IYE0 の活動を進める上で非常に有益であると考えます。

講師：マクマイケル・ウィリアム氏（福島大学経済経営学類助教）

カナダ出身、2007年8月に来日後、福島県国際交流協会にて国際交流員として2010年8月まで勤める。2010年9月からは福島大学に特任専門員（国際交流担当）とし

て雇用され、海外校との協定や、海外向け短期プログラムの計画など、福島大学における国際化推進業務に携わっている。東日本大震災では、震災直後から被災地での支援活動に関わり、留学生の防災支援など、国内外で東日本大震災に関する積極的な情報発信活動を続けている。

15. 実行委員会

実行委員長	松井 智宏	「2017年度 世界青年の船事業」	(福島市)
副実行委員長	青津 京介	「2008年度 国際青年育成事業カンボジア派遣」	(西会津町)
事務局長	日下部喜美子	「1984年度 日中青年親善交流事業」	(福島市)
委員	溝井 彩夏	「2017年度 東南アジア青年の船事業」	(二本松市)
委員	浦山 明浩	「1993年度 福島県若人の翼事業オセアニアコース」	(伊達市)
委員	大森 悠真	「2018年度 東南アジア青年の船事業」	(埼玉県)
委員	齋藤 健也	「2018年度 世界青年の船事業」	(福島市)
委員	前田 尋貴	「船と翼の会ふくしまサポーター (事業応募希望者)」	(喜多方市)
委員	大島 草太	「船と翼の会ふくしまサポーター (昨年度事業応募者)」	(田村市)